



乳幼児教育・保育推進事業 通信
 ～令和 7 年度 乳幼児教育・保育協働研修～

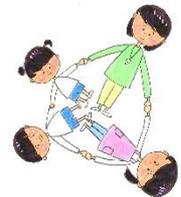


令和 7 年 7 月 11 日(金) 第 6 回研修会(保幼小連携)を開催しました。

38名の先生方と一緒に学び合いました。
 (幼稚園 2 名・認定こども園 12 名・小学校教務主任 22 名)

テーマ
 「スタートカリキュラムの改善 I」

1. 実践報告および意見交流
 大開小学校のスタートカリキュラム実践の様子を写真、動画で視聴。
 その後、持ち寄っていただいた自校のスタートカリキュラムについて、グループで意見交流
2. 指導助言
 京都府山城教育局 指導主事 幾馬 礼奈先生





「スタートカリキュラム実践報告・意見交流の中で感じたことを一つ記載してください。

【就学前施設より】

- ・小学校のカリキュラムについて、今まで知らなかったことを学べて良かった。園とは全く違う時間割や子どもたちとの関わりであることがわかった。
- ・今まで南部小の話は聞く機会が多かったのですが、様々な園でも行われていることを知り、嬉しく思えました。小学校全体が教えないといけない所でなく、子どもたちのやりたい思いを大切に、学びたいと思えるような環境になってほしいと感じました。
- ・朝にゆとりのある時間を持った事で、登園しぶりが今年はない。園の延長上のような時間は子どもたちにとってすごく入りやすい環境だと思う。
- ・子どもたちが安心できることが第1であり、大開小の取組はとても保育に近く理想的な環境だと思った。

【小学校より】

- ・市内の学校で実際に1~2ヶ月、時間割の編成を変えてチャイムではなく、15分で区切って教育活動をしていることが知れた。
- ・遊びで一番大切なのは環境づくりだなと思いました。子どもが遊びたくなるようにしむける工夫が必要。
- ・園児たちができることはたくさんあるということが分かりました。もっと子どもたちに任せて良い部分もあると感じました。
- ・朝の時間にゆとりを持つスタートカリキュラムを作りたい
- ・スタートカリキュラムを取り入れることで安心感が生まれ、子どもたちが落ち着くこと



講師の先生のお話の中で
心に残ったことを一つ記載してください。

【就学前施設より】

- ・子どもが安心して過ごせることが土台となる。幼児教育の中でも大切にしていることだなと感じた。
- ・幼児教育の大切さ、架け橋プロジェクトの大切さ、スタートカリキュラムがいかに大切かが分かった。
- ・なぜスタートカリキュラムが必要なのか、スタートカリキュラムで1番大切にしないといけないことは子どもたちが安心できるかどうか、架け橋プロジェクトの大切さ
- ・安心と挑戦を繰り返すとの言葉を聞いて、幼児教育の中でも大事にしている安心感が小学校に行っても大事なことだと改めて感じる事ができました。

【小学校より】

- ・まずはスタートカリキュラムを知ってもらうことから始めたい。
- ・「安心」を大切に、スタートカリキュラムを考える。
- ・入学式の机の向きは参考にしたいと思った。
- ・しっかりと幼児期の子どもを理解すること、それを踏まえた上でカリキュラムを組んでいくことが重要である。
- ・幼児教育との連携がどれだけ大切なのかを感じ、小学校の先生が実際に見るだけでなく保育の先生達の声のかけ方を学んでほしいということ
- ・義務教育のスタートが小学校であることから幼稚園・保育園に行っていない子も視野に入れる必要があるのでは？

就学前施設より

自分で選んで活動や遊びに取り組めるような環境を作っていきたい。
→自己決定・自律・主体的な姿を育みたい。

環境を通して、味わう・感じる経験を増やしていきたい。

10の姿を意識しつつも主体的でしなやかな心を大切にしたいと思います。

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿、引き続き子どもたちの主体性を大切にしながら子どもたちの土台になると意識して関わっていきたいです。

改めて保育の環境設定の大事さを学べたので子どもたちがやってみたいという意欲に気づき、広げていけるような生活をつくっていきたいと思いました。

保育や授業で活かしたいこと



小学校より

子どもに寄り添って願いを実現できる学びのあり方に近づけたい。

幼保でやっていることを踏まえて授業を作っていきたい。

園の先生方から、できていたはずのことができなくなっていることがあるとお聞きしたので、保育の活動・声かけを授業改善、教員の意識改革につなげたい。

子どもたちに考えさせるように「待つ」こと

接続のスムーズなつながりのために形にこだわらない授業形態をしていくこと

1年生の始めはゆったりと時間を取り、楽しいことを取り入れること

安心できるように環境・時間を見直す。